様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年６月１日現在

機関番号：84604
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2010～2012
課題番号：22720260
研究課題名（和文）　令前木簡と古代文書の機能論的検討による日本における古代文書行政成立史の研究
研究課題名（英文）　Study on the Formation of Administrative Documents System in Ancient Japan: Functional analyses on the mokkan before Taiho ritsuryo code and other related documents

研究代表者
山本　崇（YAMAMOTO TAKASHI）
独立行政法人国立文化財機構　奈良文化財研究所・都城発掘調査部・主任研究員
研究者番号：00359449

研究成果の概要（和文）：本申請研究は、大宝令制以前の文書木簡を主たる対象とし、日本における文書行政の成立過程を明らかにせんとするものである。全国から出土した七世紀木簡を一堂に会した「木簡黎明」展を飛鳥資料館で開催したほか、木簡の熟覧調査、写真撮影による成果を踏まえ、令前の紙の文書と木簡の関係を考究する総論的な論考「オシテフミ考」をまとめた。

研究成果の概要（英文）：This study is trying to reveal the formation process of administrative documents system in Japan, especially focusing upon the analysis on the mokkan before Taiho ritsuryo code. In this study we carried out careful observations of the mokkan and photographing them. Based on the data we published a paper “A Study of Oshitefumi”, that is a comprehensive study of the relation between mokkan and paper documents before Taiho ritsuryo code. In association with this study, we hold a special exhibition “Dawn of Mokkan” at Asuka Historical Museum, collecting the mokkan of the seventh century recovered from all over the country.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２０１０年度	800,000	240,000	1,040,000
２０１１年度	700,000	210,000	910,000
２０１２年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総　計	2,300,000	690,000	2,990,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：史学・日本史・古代史
キーワード：木簡

１．研究開始当初の背景

申請者の勤務する奈良文化財研究所（以下、奈文研）では、発掘調査で出土した 20 万点以上の木簡を保管しており、それとともに全国の調査機関の依頼により、各地から出土した木簡の釈読等を行っている。2004 年に刊行した山本ほか編『全国木簡出土遺跡・報告書綜覧』によると、全国の出土木簡は 31 万点

以上に及び、2009 年現在、その数は 35 万点を超えた。

木簡は、主に、古代史を書きかえる史料として注目を集めているが、七世紀史の舞台である飛鳥・藤原地域からの出土木簡は、ここ 10 年ほど飛躍的に増加して４万点を超え、ようやく検討を可能とする段階にいたった。七世紀、すなわち大宝令以前に属する木簡（以下、令前木簡）の研究は、主に地方行政制度の成立過程が窺われる荷札を中心に進められており、その成果は奈文研編『評制下荷札木簡集成』(2006 年) にまとめられているが、この作業は、日本における木簡の出現は荷札や付札にはじまるという理解を背景としていた。

しかしながら、世界史的にみても、いわゆる文書より帳簿が先行するという文化人類学の指摘は重要であり、申請者は、典型的な文書木簡は後発するものの、広義の文書に含まれる帳簿木簡の存在は、出現期の木簡を考える上で看過しえないと考える。令前の文書木簡は、研究がまだ途についたばかりといえ、その検討が日本古代史研究に与える影響は、大きいと予想する。

２．研究の目的

３年間の研究期間内に、次の３点を課題とし、その成果は展示などを企画して公開することを目的としている。

(1) 令前文書木簡の調査及び資料集成

良質の赤外線デジタル写真による新たな資料収集とともに、帳簿、文書木簡の行政事務における使われ方、みやこから地方への情報伝達のあり方、それを媒介する木簡の伝播、について考察する。

(2) 令前木簡の樹種同定

申請者らが進めてきた平城宮跡出土木簡の検討により、都城出土木簡の樹種が多様であることが明らかになってきた。これに対し、奈良時代の木簡の一世代前の木簡といえる飛鳥藤原地域の木簡は、解剖学的な観点による樹種同定木簡はほとんど行われていない。本申請研究では、統計的処理を可能とする母数として数百点の同定結果の蓄積を目的としたい。

(3) 文書行政の成立史の展望

令前の帳簿、あるいは文書木簡は、確実にミヤケで用いられた痕跡があり、その技術は同時代の宮都でも重用されたと推測する。古代庄園の文書や帳簿は、ミヤケの行政事務が発展した形と考えるべきである。日本における文書行政は、律令公文書制の成立以前に、口頭伝達を含みながら運用されていたと予見され、当該期の文書木簡、奈良・平安時代の庄園文書や、伝統的な意志伝達方法を感じさせる律令規定から外れる古文書等をあわせ検討することで、日本における文書行政成立史を展望したいと考える。

３．研究の方法

本申請研究は、奈文研保管資料をはじめとした全国の令前木簡を、最新の赤外線デジタル撮影による良質の資料を網羅的に収集することに努めるとともに、その機能を文書行政成立史の観点から再検討していく。

４．研究成果

(1) 令前木簡の熟覧調査及び撮影

申請期間に、勤務先の奈良文化財研究所が保管する令前木簡のほか、下記の遺跡（所蔵機関）から出土した木簡について、所蔵機関のご快諾のもと、熟覧調査及び写真撮影を行うことができた。

奈良県上之宮遺跡・安倍寺跡（桜井市教育委員会）、奈良県酒船石遺跡・西橘遺跡（明日香村教育委員会）、大阪府難波宮跡・佐堂遺跡（大阪文化財センター）、大阪府難波宮跡・細工谷遺跡・森ノ宮遺跡・桑津遺跡（大阪文化財研究所）、兵庫県三条九ノ坪遺跡（兵庫県立考古博物館）、静岡県神明原・元宮川遺跡（静岡県埋蔵文化財調査研究所）、静岡県伊場遺跡・城山遺跡・梶子遺跡・大蒲村東Ⅰ遺跡（浜松市博物館）、埼玉県小敷田遺跡（埼玉県埋蔵文化財調査事業団）、滋賀県北大津遺跡・西河原宮ノ内遺跡・湯ノ部遺跡（滋賀県立安土城考古博物館）、滋賀県南滋賀遺跡（大津市教育委員会）、滋賀県西河原森ノ内遺跡（野洲市教育委員会）、滋賀県十里遺跡（栗東市教育委員会）、長野県屋代遺跡群（長野県立歴史館）、金沢市金石本町遺跡（石川県埋蔵文化財センター）、徳島県観音寺遺跡（徳島県埋蔵文化財センター）、福岡県元岡・桑原遺跡群（福岡市埋蔵文化財センター）、福岡県大宰府跡・井上薬師堂遺跡（九州歴史資料館）。

加えて、申請期間に新たに出土した下記の木簡につき、所蔵機関からの依頼をうけ撮影及び釈文の作成に協力した。

埼玉県西別府祭祀遺跡（熊谷市教育委員会）、大津市近江国府跡管池遺跡（大津市教育委員会）、鳥取県良田平田遺跡（鳥取県教育文化財団美和調査事務所）、福岡県国分松本遺跡（太宰府市教育委員会）。

(2) 令前木簡の樹種

『藤原宮木簡三』として公表した木簡 592 点のうち 140 点について、解剖学的観点による樹種同定を行った。結果、広葉樹はなかった。針葉樹では、従前より報告されてきたヒノキ・スギの他に、モミ属、コウヤマキ、サワラが確認できた。古代都城木簡の樹種は、

大勢としてヒノキ・スギが多いという従前の観察に比して、藤原宮木簡においてはヒノキ科に属するものが圧倒的に多いことが示されたほか、少量ながらも多様な樹種が用いられていることがあらためて指摘した点は、今後の研究を進める上で、貴重なデータを示すことになったと考える。

(3) 文書行政成立史にかかる成果の概要

令前木簡の特徴　現在知られるところ、列島の木簡は七世紀の第Ⅱ四半期に登場する。この時期の木簡は、付札とともに、帳簿・習書とその削屑、呪符などがみえる。列島の木簡は、荷札からはじまる訳ではなく、「初発」の段階からすでに多様であったことは確実である。さりながら文書木簡の事例は、難波宮跡から出土した「謹啓」をはじめとした数点の木簡のほか、上之宮遺跡出土削屑に可能性を認めるのみで、必ずしも多くないのが現状である。

　年代の確かな七世紀木簡を検討するため、和銅三年（710）以前の紀年木簡を検討してみると、紀年木簡は、天武天皇四年（675）以降の年紀をもつものがほぼ連続して出土する。その内容による限り、木簡は、まず記録・帳簿および付札からはじまり、七世紀後半にいたり荷札、そして文書へと使用の範囲を拡大していくと評価できる。文書木簡の内容の変化は、「帳簿から文書へ」ととらえられ、紀年木簡による限り、この重心の移動は天武朝の末頃から持統朝にかけて序々に進行し、大宝年間にいたるとみられる。このように理解してよければ、少なくとも木簡を用いた行政処理は、天智朝の辛未の中央官制の成立以降、比較的ゆるやかに根付き、天武朝の末頃から藤原宮の時代にかけて本格的に開花すると展望できる。

オシテフミ　本申請研究の重要な成果の一つとして、令前の文書行政の実態を考究することを課題とし、令前に用いられていた紙または布の文書が存在したことを明らかにした点は、注目すべきであろう。「オシテフミ」は、六世紀末から七世紀にかけて、とりわけ変事など緊急性を帯びる案件がある際に、王命ないし権力中枢の意志を、地方の官人に送達するために用いた文書である。その文書には、手形が押され、命令の正当性を保証していた。六世紀末頃における国宰の管轄区画の成立は、筑紫や後に畿内となる地域に、常駐する官人が出現しはじめていたと思われ、このような地方制度の整備は、官人へ緊急性を帯びる案件を送達する文書を制度上不可欠とし、この文書の送達が使者によるものである以上、文書の作成に際して、王命の正当性を保証する手段が模索されたのであろう。「オシテフミ」は、かくして地方との関係から成立したと考えられる。

(4) 成果の展示公開

「木簡黎明」展の開催　奈良文化財研究所飛鳥資料館において、全国の遺跡から出土した令前木簡 173 点を一堂に会した展示を開催した（会期 2010 年 10 月 16 日～11 月 28 日）。展示解説の図録『木簡黎明―飛鳥に集う古の文字たち』（飛鳥資料館図録第 53 冊）及びカタログを作成した。

「埋もれた大宮びとの横顔―藤原宮東面北門周辺の木簡」展の開催　奈良文化財研究所都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）展示室において、『藤原宮木簡三』として正報告した木簡から 40 点を厳選した木簡のロビー展示を開催した(会期 2012 年 4 月 7 日～5 月 6 日)。展示解説のリーフレットを作成し、観覧者他に無料配布した。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 28 件）

１. 木村理恵・山本崇（共著）「二〇一一年出土の木簡　奈良・藤原京跡」(『木簡研究』第 34 号、2012 年 11 月、pp.,14－15)【査読なし】

２. 山本崇（単著）「一九七七年以前出土の木簡（三四）　奈良・藤原宮跡」(『木簡研究』第 34 号、2012 年 11 月、pp.,118－119)【査読なし】

３. 高橋学・五十嵐祐介・山本崇（共著）「一九七七年以前出土の木簡（三四）　秋田・小谷地遺跡」(『木簡研究』第 34 号、2012 年 11 月、pp.,123－124)【査読なし】

４. 山本崇（単著）「本誌未掲載出土事例略報（一）　石川・普正寺遺跡(1)」(『木簡研究』第 34 号、2012 年 11 月、p.130)【査読なし】

５. 山本崇（単著）「本誌未掲載出土事例略報（一）　石川・普正寺遺跡(2)」(『木簡研究』第 34 号、2012 年 11 月、p.130)【査読なし】

６. 山本崇（単著）「本誌未掲載出土事例略報（一）　新潟・平林城跡」(『木簡研究』第 34 号、2012 年 11 月、p.131)【査読なし】

７. 山本崇（単著）「本誌未掲載出土事例略報（一）　新潟・牧目館跡」(『木簡研究』第 34 号、2012 年 11 月、p.131)【査読なし】

８. 山本崇（単著）「オシテフミ考―大宝令制以前の文書について」(奈良文化財研究所『文化財論叢Ⅳ』奈良文化財研究所創立 60 周年記念論文集、奈良文化財研究所学報第 92 冊、2012 年 10 月、pp.,425－442)【査読なし】

９. 山本崇・藤井裕之（共著）「藤原宮木簡の樹種」(奈良文化財研究所『奈良文化財研究所紀要 2012』2012 年 6 月、pp.,117－118)【査読なし】

10. 山本崇（単著）「「埋もれた大宮びとの横顔」展に寄せて―木簡の「御史官」は国史編纂官？」（『読売新聞』〈文化欄〉2012 年 4 月 17 日夕刊）【依頼原稿】
11. 山本崇（単著）「壬申の乱と飛鳥寺西の広場―小墾田兵庫をめぐって」（『明日香風』第 122 号、2012 年 4 月、pp.，8－13）【査読なし】
12. 山本崇（単著）「廃都後の平城宮―奈良時代末から平安時代初期までの平城旧宮」（奈良女子大学古代学学術研究センター編集・発行『都城制研究(6) 都城の廃絶とその後』2012 年 3 月、pp.，62－75）【査読なし】
13. 山本崇（単著）「平安時代の即位儀とその儀仗―文安御即位調度図考」（『立命館文学』624 号、杉橋隆夫教授退職記念論集、2012 年 1 月、pp.，103－118）【査読あり】
14. 山本崇（単著）「東面北門周辺の出土木簡と宮内省・中務省」（奈良文化財研究所編（責任編集・山本崇）『藤原宮木簡三』（奈良文化財研究所史料第 88 冊、2012 年 1 月、pp.，22－29）【査読なし】
15. 山本崇（単著）「二〇一〇年出土の木簡 奈良・藤原宮跡」（『木簡研究』第 33 号、2011 年 11 月、pp.，15－16）【査読なし】
16. 濱修・山本崇（共著）「一九七七年以前出土の木簡（三三） 滋賀・北大津遺跡」（『木簡研究』第 33 号、2011 年 11 月、pp.，144－146）【査読なし】
17. 山本崇（単著）「一九七七年以前出土の木簡（三二） 奈良・藤原宮跡」（『木簡研究』第 32 号、2010 年 11 月、pp.，122－124）【査読なし】
18. 若杉智宏・森先一貴・山本崇（共著）「朝堂院朝庭の調査（飛鳥藤原第 163 次）」（奈良文化財研究所『奈良文化財研究所紀要 2011』2011 年 6 月、pp. 82－90）【査読なし】
19. 山本崇（単著）「史料からみた第一次大極殿院地区」（奈良文化財研究所編『平城宮発掘調査報告□－第一次大極殿院地域の調査 2』（奈良文化財研究所学報第 84 冊、2011 年 3 月、第Ⅴ章－2、pp.，253－298）【査読なし】
20. 山本崇（単著）「第Ⅰ期展示木簡」「第Ⅱ期展示木簡」「第Ⅲ期展示木簡」（奈良文化財研究所飛鳥資料館編『木簡黎明―飛鳥に集う古の文字たち』飛鳥資料館カタログ第 23 冊、2010 年 10 月、pp.，8－13）【査読なし】
21. 山本崇（単著）「平城京の建設―条坊と条里」（『季刊考古学』第 112 号、平城京特集、2010 年 8 月、pp.，23－28）【査読なし】
22. 山本崇・藤井裕之（共著）「平城宮木簡の樹種」（奈良文化財研究所『奈良文化財研究所紀要 2010』2010 年 6 月、pp.，66－67）【査読なし】
23. 山本崇・高橋知奈津・豊島直博・若杉智宏・石田由紀子（共著）「朝堂院回廊・大極殿院回廊の調査―第 160 次」（奈良文化財研究所『奈良文化財研究所紀要 2010』2010 年 6 月、pp.，80－90）【査読なし】

〔学会発表〕（計６件）
1．山本崇（単独）「古代宮廷の宴―木簡が語る食材」（奈良の食文化研究会招待講演、奈良（奈良市生涯学習センター）、2012 年 5 月 20 日）
2．山本崇（単独）「平安時代の即位儀とその儀仗―文安御即位調度図考」（日本史研究会古代史部会、京都、2011 年 12 月 19 日、要旨は『日本史研究』第 607 号、2013 年 3 月）
3．山本崇（単独）「廃都後の平城宮―奈良時代末から平安時代初期までの平城旧宮」（都城制研究集会「都城の廃絶とその後」、奈良（奈良女子大学）、2011 年 2 月 12 日）
4．山本崇（単独）「胡桃館遺跡出土木簡釈読の経緯」（第 1 回胡桃館遺跡調査検討委員会、秋田県北秋田市（北秋田市中央公民館）、2011 年 2 月 2 日）
5．近藤滋・大橋信弥・山本崇（共同）「北大津遺跡の調査と木簡の再釈読」（木簡学会第 32 回研究集会、奈良（奈良文化財研究所）、2010 年 12 月 4 日）
6．山本崇（単独）「2011 年全国出土の木簡」（木簡学会第 33 回研究集会、奈良（奈良文化財研究所）、2011 年 12 月 4 日）

〔図書〕（計５件）
1．奈良文化財研究所都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）史料研究室編（責任編集・山本崇）『埋もれた大宮びとの横顔―藤原宮東面北門周辺の木簡』（展示リーフレット、2012 年 3 月、pp,．1－6）
2．奈良文化財研究所編（責任編集・山本崇）『藤原宮木簡三』（奈良文化財研究所史料第 88 冊、2012 年 1 月、図版 67 プレート、解説 pp.，1－252）
3．奈良文化財研究所編（共著）『平城宮発掘調査報告□－第一次大極殿院地域の調査 2』（奈良文化財研究所学報第 84 冊、2011 年 3 月）、山本崇（単著）「木簡」（pp.，101－120）の項執筆）【査読なし】
4．奈良文化財研究所飛鳥資料館編（責任編集・山本崇）『木簡黎明―飛鳥に集う古の文字たち』（飛鳥資料館図録第 53 冊）（2010 年 10 月、pp,．1－80）
5．木簡学会編（共著）『木簡から古代がみえる』（岩波新書新赤版 1256、2010 年 6 月）、山本崇（単著）「37 年後の復活（胡桃館木簡）」（pp.，193－200）の項執筆）【査読なし】

６．研究組織

(1)研究代表者

山本　崇（YAMAMOTO TAKASHI）
独立行政法人国立文化財機構　奈良文化財研究所・都城発掘調査部・主任研究員
研究者番号：00359449

(2)研究分担者

（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者

（　　）

研究者番号：